

属性セット対応検定

道路基盤地図情報交換属性セット(案) 対応検定の概要

2012年10月

一般社団法人
オープンCADフォーマット評議会

目次

1. はじめに	2
2. 対象ソフトウェア.....	2
3. 検定料の区分.....	2
4. 対象となる機能等.....	4
5. 合否判断の基本方針.....	5
6. 申請と認証.....	6
7. 有効期間	6
8. 関連資料	6
【別紙 1】 操作性ガイドライン.....	7
【別紙 2】 検定項目と検定用ファイル.....	8

1. はじめに

OCF 検定としておこなう「属性セット対応検定」のひとつとして、道路基盤地図情報交換属性セット対応検定(以下、本検定)について定めます。

本資料に記載のない事項は、すべて「OCF 検定の概要(2010年4月)」等で定める「SXF 対応ソフトウェア検定」に準拠します。

2. 対象ソフトウェア

本検定は、国土交通省国土技術政策総合研究所の策定する、

- 道路基盤地図情報交換属性セット(案)第 1.1 版 (平成 20 年 8 月)
(注)2012.9.21 時点修正版。以下属性セットと略します。

にて規定される「属性セットに対応した CAD」及び「属性セットに対応したビューア」の必須機能を備えるソフトウェアを対象に実施します。

資料は、下の「道路工事完成図等作成支援サイト」からダウンロードできます。

http://www.nilim-cdrw.jp/dl_std.html

3. 検定料の区分

本検定の検定料は、以下の通り定めます。

カテゴリー	条件 1	条件 2	検定料
CAD	「属性セットに対応した CAD」の必須機能を満たす	SXF 対応ソフトウェア検定/CC2 以上の認証を取得している CAD 又はビューア (同ソフトウェアへのアドオンを含む)	10 万円
		上記を満たさない CAD	20 万円
ビューア	「属性セットに対応したビューア」の必須機能を満たす	SXF 対応ソフトウェア検定/CC2 以上の認証を取得している CAD 又はビューア (同ソフトウェアへのアドオンを含む)	1 万円
		上記を満たさないビューア	15 万円

(補足)

- ・ビューアの場合、SXF 対応ソフトウェア検定に追加される検定対象項目が少ないことを考慮し、通常検定及び定期検診は、SXF 対応ソフトウェア検定の際に同時におこないます。
- ・ビューアの定期検診料は、SXF 対応ソフトウェア検定の検診料に含まれるものとします。
- ・他の区分の検診料、及び出力検定のみ再検定の特例等は、SXF 対応ソフトウェア検定に準じます。

4. 対象となる機能等

本検定は、

- ・機能
- ・操作性
- ・当該属性セット準拠の SXF ファイルの正確な入出力を対象に検定をおこないます。

これらの判断は、以下の通りの3種類の検定を通じて行い、3種類全ての検定に合格した場合にのみ、合格とします。

検定の種類	検定の内容	検定方法
作成	<ul style="list-style-type: none"> ・当該属性セットが要求する図形の作成、及び属性付与が、所定の条件を満たし、かつ、操作性ガイドラインに基づいた方法によって行えるか否かを検定する 	<ul style="list-style-type: none"> ・図形データの作成・属性付与を行ない、その操作を検定員が監視し、操作性ガイドラインに基づき、操作性の可否を判断する ・作成結果は「編集検定」「出力検定」の対象ファイルとし、当該属性セットが要求する図形データ、属性であることを検定する
	<ul style="list-style-type: none"> ・当該属性セットに反する属性の付与(図形の作成も含む)が行われないことを検定する 	
編集	<ul style="list-style-type: none"> ・当該属性セットに準拠して作成された図面データが所定の条件通りに描画でき、所定の属性が付与されているか否かを被検定ソフトの画面上で確認する 	<ul style="list-style-type: none"> ・作成検定で作成されたファイル、およびあらかじめ用意する編集検定用ファイルを被検定ソフトで描画し、その結果を検定員が目視で確認する ・検定員の指示する図形に付与されている属性が所定の値等であることを確認する
	<ul style="list-style-type: none"> ・当該属性セットが要求する図形の編集や属性の編集が行え、かつ、操作性ガイドラインに基づいた方法によって行えるか否かを検定する 	
出力	<ul style="list-style-type: none"> ・当該属性セットが要求する通りの図形データ、および属性が付与された SXF ファイル(SAF ファイルも含む)が出力できるか否かを検定する 	<ul style="list-style-type: none"> ・「作成検定」および「編集検定」で出力された SXF ファイルに対し、OCF で別途作成するチェックソフトにより、当該属性セットが要求する図形データ、属性であることを確認する

5. 合否判断の基本方針

検定の判断項目は、先に記したように、

- ・機 能
- ・操作性
- ・当該属性セット準拠の SXF ファイルの正確な入出力

の3種類です。

これらのうち、「機能」および「SXF ファイルの正確な入出力」については、当該属性セットが要求する機能や精度等を有することを検定基準とし、当該属性セットで示されている図形等の分類ごとにその基準を定めます。

当該属性セットで示されている以外の図形データ(形状、フィーチャ、レイヤ等)、および属性に関しては、「共通検定基準」として以下の通り定めます。

「共通検定基準」

当該属性セットで存在してはならないあらゆるデータ(フィーチャ、レイヤ、属性等)は、被検定ソフト上で作成できることは許可するが、SXFファイル出力時には出力されてはならず、SXFファイル出力時に、どの図形が違反しているのかを特定できる手段を提供しなければならない。

※ 被検定ソフトの独自形式のファイルとして保存する場合には、上記のチェックを行う必要はない(作業中である可能性があるため)

※ 上記の対象となる図形は、当該属性セットで定義されている属性が付与されている図形に限るものとし、同一図面ファイル内に、当該属性セットで定義されている属性が付与されていない図形(以降は「一般図形」と表現し、フィーチャ、レイヤ、部分図等の幾何情報以外の情報も含む)の存在を否定するものではない

「操作性」については、[【別紙 1】操作性ガイドライン](#)に示す内容を基に合否の判断をおこないます。

ただし、このガイドラインは、当該属性セットだけに適用するものであり、被検定ソフト全般の操作性については適用されません。

尚、ガイドラインに示す内容は、最低限実現すべき操作性であり、これ以上の操作性(例:図形名称を選択することで、所定のレイヤや色、フィーチャが指定でき、図形を作成することができるなど)を実現することを妨げるものではありません。

6. 申請と認証

申請と認証については次の通りです。

- 申請
申請書は、本検定申請専用様式を定めます。
<主な申請内容>
 - ・ SXF 対応ソフトウェア検定の認証情報
 - ・ 完成平面図支援機能への対応申告（必須＋オプション対応）検定試験日は、申請書が提出されてから事務局にて調整します。
- 認証番号等
認証番号、認証ロゴ、認定証は、本検定独自のものを定めます。



7. 有効期間

認証の有効期間と定期検診の定めは、「SXF 対応ソフトウェア検定」と同様とします。

ただし、SXF 対応ソフトウェア検定／CC2 以上の認証を取得しているソフトウェアの場合、その認証の有効期間を超えることはできません。

8. 関連資料

その他、本検定に関連する資料は、「OCF／検定基準」の以下の URL に掲載されています。

<http://www.ocf.or.jp/kentei/kijun.shtml>

【別紙 1】 操作性ガイドライン

作成・編集項目	操作性のガイドライン
レイヤ	<ul style="list-style-type: none"> “C-BMK”等の文字列をその都度入力させではなく、製品出荷時、あるいはユーザーがマスター化しておくことにより、コンボボックス等からの選択入力可能な方式であること。 当該属性セットは図形名称で示される地物とレイヤが1対1で対応していることから、“C-BMK”等の実際のレイヤ名だけではなく、“図形名称”も同時に表示されること。
色	<ul style="list-style-type: none"> RGB 値をその都度指定させではなく、製品出荷時、あるいはユーザーがマスター化しておくことにより、選択入力可能な方式であること。 独自名称の使用は認めるが、その名称と同時に当該属性セットで示されている色の名称が確認できること。 色を登録する際には、それがどのような色となるのかを目視で確認できること。
属性全般	<ul style="list-style-type: none"> “図形名称”は選択入力可能な方式であること。 図形名称が確定した時点では、その図形名称に対応するグループ別に、全ての属性が一度に入力できるインターフェース(ダイアログボックス等)を備えていなければならないかつ、ユーザーが入力するのは“属性値”のみであること。 “現旧区分”属性のように属性値を選択式で入力可能なものは、選択入力方式を採用すること。 “現旧区分”属性のように、SXFファイル中に出力される属性値が、“1”や“0”という数字で、その値が何を意味するのかわからない属性値を入力する際には、必ずその値が持つ意味を表示すること(属性値を表示する際も同様)
Area_Control	<ul style="list-style-type: none"> “車道部”等の、既定義ハッチング(Area_Control)に属性を付与する地物(図形名称)を新規に作成する際には、Area_Control 作成と同時に、最低限の属性として当該図形名称を付与し、当該属性セットが要求する表示が行えること。 Area_Control の領域を示す”複合曲線“を新規に作成する際に、その構成点や図形を一つ一つ指定するような作成方法は認めない。
線分の折線化	<ul style="list-style-type: none"> Area_Control の複合曲線作成と同様に、対象となる線分や折線の一つ一つ指定するような方法は認めない。

※ 上表に記載した以外でも、当日の検定員全員が不適当と判断した際には不合格とし、ガイドラインにその都度追加していくものとします。

【別紙 2】 検定項目と検定用ファイル

検定の実施においては、検定項目を以下のように分類し、各々の検定項目に最適な検定用ファイルを最低1ファイル用意し、作成・編集・出力検定を実施します。

検定項目	検定の主眼	作成支援機能番号
描 画	・ 完成平面図全体の描画状況	1
	・ 全ての地物の描画状況	
	・ 図形データの着色表示機能	5
	・ 図形名称、図形識別番号表示機能	6
	・ 属性付与済み図形の強調表示機能	24 の一部
図形作成	・ 測地座標系での X 座標、Y 座標の入力	3、4
	・ 当該属性セットで定義されている図形(フィーチャ)の新規作成機能	7、8 10 13～15
	・ 図面表題欄(フィーチャ、幾何図形共)の新規作成機能	22 の一部
図形編集	・ 図形の複写・移動・削除機能、および属性情報の取扱い結果	25、26
	・ 折線結合、曲線の折線変換等の、図形の生成機能	9、11、37
	・ 交点自動生成機能	16
	・ ラスターファイルの名称変更機能	18
	・ 図面表題欄として作成されている図形(文字列)への表題欄属性付与機能、及び図面表題欄フィーチャの自動設定機能	22 の一部
形状変更	・ 折線の頂点移動等の、図形形状変更機能	12、27
属性付与	・ 図形への、属性の新規付与機能	20、21 23、24
	・ 当該図形の、所定レイヤへの自動振り分け機能	19
属性編集	・ 属性情報の表示および、変更機能	20、21 23、24
	・ 当該図形の、所定レイヤへの自動振り分け機能	19
境界判定	・ 各種閾値の判定結果の正確性	17 28～36
	・ 各種エラーメッセージの表示機能	
	・ エラー図形特定機能	
一般図形取扱	・ 部分図、レイヤ管理を始めとする、一般図形が混在する図面データの取扱い結果	1
ファイル整合	・ P21(SFC)ファイルと SAF ファイルの整合性	1、2

※ 「機能」検定には、機能の有無(オプションの場合)と操作性の検定を含みます。